

ライムライト

Limelight

観賞日 2018・5・28

制作 1952年 米国 上映時間 144分
脚本 チャールズ・チャップリン
監督 チャールズ・チャップリン
出演 チャールズ・チャップリン (カルヴェロ)、クレア・ブルーム (テリー)、
バスター・キートン (カルヴェロのパートナー)、
シドニー・チャップリン (ネヴィル)

【あらすじ】

第1次大戦直後の1914年の夏、ロンドン。かつて、一世を風靡した道化師のカルヴェロは今ではすっかり落ちぶれていた。ある日、同じアパートに住み、人生に絶望した若い娘テリーを自殺から救う。テリーはカルヴェロの献身的な看病で立ち直り、バレエダンサーとして成功する。

他方、失敗続きのカルヴェロはテリーの助けで舞台復帰を果たすことになるが……。

過去の名声を忘れられない老優と若く美しく才能あふれるダンサーとの愛は……。

【解説】

■ポイント

- ・チャップリンの代表作で集大成の作品(チャップリンは本作直後に赤狩りでアメリカ国外追放処分となる)
メモをしておきたい名台詞が多数
- ・チャップリンの一人五役
制作、脚本、監督、音楽、主演
- ・対比
老いと若さ、有名と無名
- ・ライムライトとは舞台照明に使われていた照明器具で、名声の代名詞。

■見どころ

- ・いつもの扮装ではないチャップリン
- ・喜劇の王様二人の名人芸
チャップリンとバスター・キートンとの共演は本作のみ。
レジェンド、キートンの芸を見る機会は稀。
- ・音楽
誰もが耳にしたことのある愛の名曲エターナリー (テリーのテーマ) は森山良子、宇多田ヒカルもカバー